平成１９年度　多摩高校史編さん委員会活動報告

◎　第１回多摩高校史編さん委員会　座談会開催

平成 19 年7月 21 日（土）15:00～17:00　　川崎市総合自治会館

神奈川県立多摩高等学校　多摩高史編纂委員会　座談会　概要

【出席者】

桜井先生（世界史　創立 2 年目から 9 年目まで在籍）
古谷先生（保健体育　昭和 33 年から創立 2 年目から 9 年目まで在籍）

1 期	小野さん（多摩高史編纂委員長）　堀さん（初代生徒会長）
2期	佐藤さん
3期	石垣さん（多摩高史編纂委員会副委員長）清水さん
4期	森さん（多摩高同窓会事務局長）
13期	中根さん
16期	中島さん
19期	新井明人

【座談会　発言の概要】

1期　小野さん

・50 周年記念事業として「多摩高等学校 50 年史」を作成。
・100 年史作成について、多摩高史編纂委員会を立ち上げた。
・「多摩高等学校 50 年史」を作成の経緯から、資料の少なさを痛感している。
・編纂委員会の活動を通じて記録や記憶を掘り起こし、100 年史作成に役立てたい。
・今回は多摩高校創成期を知る皆さんにご出席いただき、貴重なお話をお聞きしたい。

桜井先生

・多摩高創立時の生徒募集の実態など。
・終戦後初めてできた県立高校。
・山岡校長により、さまざまな高校から個性豊かで、有能な先生が集められた。
・1/2/3 期に赴任した先生方は、本当に個性のある先生ばかりだった。

質問：どのような学校を目指していたのか？

古谷先生

・当初は県立川崎高校に追いつけ、追い越せ。学力だけでなく、部活や行事なども総合した面で県立川崎高校を追い越すこと。

・将来的には、「西の湘南、東の多摩」と称されることを目標に、校長を始め、教師一丸となって教育活動を展開していた。
・湘南の教育は、一言で言うと「文武両道」。部活が活発であった。

・大学を卒業して初めての職場が多摩高校。
・先生全員やる気十分。中でも山岡先生の熱意は一入であった。
・本来、都立高校に就職するはずが、大学の勧めで多摩高校の面接を受け、採用が決定。
・スポーツで国体に出場したり、全日本選手権に出場経験があったという履歴を調べ、山岡先生にスカウトされたのではないかと思う。
・熱心な先生ばかりで、自分も、一ヶ月で何日家に帰ったか、というような状況。部活の練習（朝錬）などもあり、いつも宿直を買って出ていた。

桜井先生
・年配教師は宿直をやりたがらない。で、若手が買って出る。
・宿直室が、教師と生徒の交流の場となっていた。
・放課後は在校生が、夕方以降は卒業生が尋ねてくる。（本来はよろしくないことだが、お酒を持って）

古谷先生
・当時は終戦から10年。外食券がなければ食事ができないという状況ではなかったけれども、物がない時代。ようやく日本が高度成長に向けて動き始めた時代。そんなときに誕生した高校なので、いろいろな動きがあったはずだと思います。

石垣さん
・多摩高校は、県立高校のモデル校として設立されたと聞きましたが？

桜井先生
・そうですね。

質問：創成期ならではの苦労は？
桜井先生
・施設が足りないというのはあった。体育館がなかなかできないとか。
・規則が厳しかった。「男子の頭髪は丸刈りが好ましい。“好ましい”は強制の意味である」とか。
僕は散々反対しました。
・職員室も1期に赴任した先生と2期に赴任した先生では別でした。
・2期目、3期目に赴任した先生が新しい風を吹き込んだという感じです。

小野さん
・開放的な部分もあったが、厳しいところが多かった。規律を守らせようとしていることを感じていた。
1期の生徒には停学者、退学者も出ていた。

石垣

・われわれのときは、それほどの厳しさは感じなかった。

佐藤

・2 期としては、1 期の先輩は怖かった記憶がある。

桜井先生

・窓を開けるときは、必ず真ん中にあけなくてはならなかったし、掃除はいるも教頭先生が見回っていた。

清水さん

・われわれとしては、リベラルな感じもしていた。

古谷先生

・グラウンドが、表面は砂、それを掘ると石炭ガラ。陸上部がコースを整備するがどうにもならない。

小野さん

・おかげで水はけが異常に良いんですが。

佐藤さん

・グラウンド整備をかねて、体育祭で石拾い競争や、草取り競争を行った。

・体育祭を四季に分けて行うようになったのは良いアイデアであった。1 年から 3 年までのつながりができるようになった。

・先生が本当に熱心で、西先生が夜いきなり家に来て、勉強しているかどうか確認に来たことがある。

桜井先生

・職員の野球チームの練習が厳しかったこと。教師も文武両道を求められていた。国体の出場経験がある方も多かった。

石垣さん

・先生方の意気込みが伝わってくる学校。川崎高校に行かなくて良かった。

桜井先生

・もちろん学習面での指導も充実していた。

・1/2/3 期の先生と生徒が一緒に学校を作っていこうと言う気概があった。

・厳しいところもあったが、教師と生徒の年齢も近く、一緒に学校を作るという経験ができた。

・大学受験一辺倒になることなく、現在まで発展してきた。今でも行事が多いという伝統は根付いている。

佐藤さん

・先生というより、「戦友」。すぐにあだ名をつけて呼んでいて、今でもあだ名で覚えている。

以上、詳細な原稿については現在テープお越し作業中です。